

国語Ⅰ・国語Ⅱ

(解答番号

1

～

36

)

(注意 「国語Ⅰ」の試験問題は、3ページ～38ページです。)

第 4 問

次の文章を読んで、後の問い(問1〜6)に答えよ。(設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。)

(配点 50)

有<sub>レ</sub>客携<sub>ニ</sub>柴<sub>(注1)</sub>窯片磁<sub>ニ</sub>索<sub>ニ</sub>数<sub>ニ</sub>百<sub>ニ</sub>金<sub>ニ</sub>云<sub>フ</sub>「嵌<sub>ニ</sub>於<sub>ニ</sub>冑<sub>ニ</sub>臨<sub>レ</sub>陣<sub>ニ</sub>可<sub>ニ</sub>以<sub>テ</sub>辟<sub>ニ</sub>火<sub>(注2)</sub>

器<sub>ヲ</sub>然<sub>レドモ</sub>無<sub>レ</sub>由知<sub>レ</sub>確<sub>レ</sub>否<sub>ヲ</sub>。余<sub>ハ</sub>曰<sub>ク</sub>「何<sub>ソ</sub>不<sub>ル</sub>下<sub>ニ</sub>繩<sub>ニ</sub>懸<sub>ニ</sub>此<sub>ノ</sub>物<sub>ヲ</sub>以<sub>テ</sub>銃<sub>ヲ</sub>発<sub>シテ</sub>鉛<sub>ヲ</sub>丸<sub>ニ</sub>擊<sub>ク</sub>之<sub>ヲ</sub>」

如<sub>シ</sub>果<sub>ク</sub>辟<sub>レ</sub>火<sub>ヲ</sub>必<sub>ズ</sub>不<sub>レ</sub>碎<sub>ケ</sub>。価<sub>ニ</sub>数<sub>ニ</sub>百<sub>ニ</sub>金<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>多<sub>シト</sub>。如<sub>シ</sub>碎<sub>レ</sub>則<sub>チ</sub>辟<sub>レ</sub>火<sub>ヲ</sub>之<sub>ノ</sub>説<sub>不<sub>レ</sub></sub>

確<sub>ク</sub>理<sub>トシテ</sub>不<sub>レ</sub>能<sub>ハ</sub>索<sub>ニ</sub>価<sub>ニ</sub>数<sub>ニ</sub>百<sub>ニ</sub>金<sub>ニ</sub>也<sub>ト</sub>。鬻<sub>者</sub>不<sub>レ</sub>肯<sub>ハク</sub>曰<sub>ク</sub>「公<sub>於<sub>ニ</sub>賞<sub>ニ</sub>鑑<sub>ニ</sub>非<sub>ニ</sub>当<sub>レ</sub>行<sub>ニ</sub></sub>

殊<sub>ニ</sub>殺<sub>レ</sub>風<sub>景</sub>」急<sub>ニ</sub>懷<sub>レ</sub>之<sub>ヲ</sub>去<sub>ル</sub>。後<sub>聞<sub>ク</sub>下<sub>ニ</sub>鬻<sub>ニ</sub>於<sub>ニ</sub>貴<sub>ニ</sub>家<sub>ニ</sub>竟<sub>ニ</sub>得<sub>レ</sub>中<sub>ニ</sub>百<sub>ニ</sub>金<sub>ニ</sub>上<sub>ヲ</sub>」</sub>

夫<sub>レ</sub>君<sub>子</sub>可<sub>キモ</sub>欺<sub>クニ</sub>以<sub>テ</sub>其<sub>方</sub>難<sub>シ</sub>罔<sub>シ</sub>以<sub>テ</sub>非<sub>レ</sub>其<sub>道</sub>。砲<sub>火</sub>横<sub>衝</sub>如<sub>キニ</sub>雷<sub>霆</sub>

下<sub>撃</sub>豈<sub>ニ</sub>區<sub>ニ</sub>區<sub>タル</sub>片<sub>片</sub>瓦<sub>所<sub>ニ</sub>能<sub>ク</sub>禦<sub>ニ</sub>且<sub>ツ</sub>雨<sub>過<sub>ニ</sub>天<sub>ニ</sub>青<sub>ハ</sub>不<sub>レ</sub>過<sub>ニ</sub>釉<sub>ニ</sub>色<sub>ノ</sub>精<sub>妙<sub>ナル</sub></sub>耳<sub>ニ</sub>」</sub></sub>

究<sub>フニ</sub>由<sub>リ</sub>人<sub>造<sub>ニ</sub>非<sub>レ</sub>出<sub>ニ</sub>神<sub>功<sub>ニ</sub>何<sub>ソ</sub>断<sub>裂<sub>ニ</sub>之<sub>ノ</sub>余<sub>尚<sub>ホ</sub>有<sub>ニ</sub>靈<sub>コト</sub>如<sub>レ</sub>是<sub>耶</sub>。余<sub>作<sub>ニ</sub>旧</sub></sub></sub></sub></sub>

瓦<sub>が</sub>硯<sub>けん</sub>歌<sub>カ</sub>有<sub>レ</sub>云<sub>フ</sub>、

(注9) 銅雀台址類無遺  
 何乃剩瓦多如斯

文士例有<sub>ニ</sub>好<sub>ム</sub>レ奇癖<sub>一</sub>  
 心知<sub>ニ</sub>其<sub>ノ</sub>妄<sub>ナ</sub>レ姑<sub>シ</sub>自<sub>ラ</sub>

柴片亦此類而已矣。

(紀昀「閱微草堂筆記」による)

- (注)
- 1 柴窯——磁器の名品を産んだ古い窯の名。
  - 2 辟——避ける。免れる。
  - 3 当行——専門家。くろうと。
  - 4 其方——理になつた方法。
  - 5 罔——あざむく。
  - 6 雷霆——かみなり。
  - 7 雨過天青——柴窯の磁器の色調を形容することば。
  - 8 釉色——陶磁器のうわぐすりの色。
  - 9 銅雀台——魏の曹操が築いた展望台。この建物の瓦を用いて作つた硯がもてはやされた。

(イ)

29	余
----	---

---

⑤ ④ ③ ② ①

余 余 余 余 余

暇 熱 人 念 裕

(ア)

28	出
----	---

---

⑤ ④ ③ ② ①

出 出 出 出 出

資 奔 師 藍 帆

問 1 傍線部(ア)「出」・(イ)「余」と同じ意味の「出」「余」を含む熟語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 

28
----

 ・ 

29
----

。

問2 傍線部A「無由知確否」・D「難罔以非其道」の返り点の付け方と書き下し文の組合せとして最も適当なものを、

次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 30 ・ 31。

A 無由知確否

30

① 無<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>確<sub>レ</sub>否

由<sub>ま</sub>無くして確たるを知るや否やと

② 無<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>確<sub>レ</sub>否

確たるや否やを知るに由無しと

③ 無<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>確<sub>レ</sub>否

知るに由無きは確たるや否やと

④ 無<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>確<sub>レ</sub>否

確たるを知るや否やに由無しと

⑤ 無<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>確<sub>レ</sub>否

由無くして確たるや否やを知らんと

D 難罔以非其道

31

① 難<sub>レ</sub>罔<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>非<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>道

罔<sub>し</sub>ひ難きは其の道に非ざるを以てなり

② 難<sub>レ</sub>罔<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>非<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>道

罔ふるを難するに其の道に非ざるを以てす

③ 難<sub>レ</sub>罔<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>非<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>道

罔ふるに其の道に非ざるを以てし難し

④ 難<sub>レ</sub>罔<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>非<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>道

罔ふるに其の道に非ざるを以てするを難す

⑤ 難<sub>レ</sub>罔<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>非<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>道

罔ふるを難じて以て其の道を非とす

問3 傍線部B「何<sub>下</sub>繩懸<sub>ニ</sub>此物、以<sub>レ</sub>銃<sub>発</sub>鉛丸<sub>撃</sub>之」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 32。

- ① どうして冑を縄でつるし、銃弾で撃たないことがあるのか。
- ② どうして冑を縄でつるし、銃弾で撃たないのか。
- ③ どうして磁器の破片を縄でつるし、銃弾で撃たないのか。
- ④ どうして冑を縄でつるさずに、銃弾で撃つことができようか。
- ⑤ どうして磁器の破片を縄でつるさずに、銃弾で撃つことができようか。

問4 傍線部C「急懐<sub>レ</sub>之去」とあるが、なぜ「鬻者」はそうしたのか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 33。

- ① 骨董<sub>こっとう</sub>を見る目がない人物に売ろうとしたことを後悔したから。
- ② 買う気もないのに言いがかりをつけられたと腹を立てたから。
- ③ 風雅を理解しない人物に売ろうとしてもむだだとあきらめたから。
- ④ 百金よりも安く買ったたかれるのではないかと心配したから。
- ⑤ 高く売りつけるための嘘<sub>うそ</sub>が通用する相手ではないと悟ったから。

問5 傍線部Eについて、(i)空欄に入る語、(ii)その解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は  ・  。

(i)

- ⑤ 虚  
④ 欺  
③ 詐  
② 娛  
① 愉

(ii)

- ⑤ とりあえず自分の心をごまかすのである。  
④ そのうちに自然と愛着がわいてくるのである。  
③ やがて自分も他人をだますのである。  
② 時とともに自然と執着心がなくなるのである。  
① ともかく自分の趣味を楽しむのである。

問 6

筆者の考えにもとづき、学術・文化について意見を述べるとすれば、どのようなものになるか。最も適当なものを、次の

① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。解答番号は 36。

- ① 古典を研究する人の中には、古いものの価値をただ古さの中にのみ求める向きもあるが、古いものの中から新しい価値を発見してこそ研究の意義がある。
- ② 伝統の継承に力をそそぐことが、文化政策にたずさわる者の重要な役目であり、貴重な文物を広く収集して長く保存することに費用を惜しむべきではない。
- ③ 新しい文化の創造には柔軟な発想が必要不可欠であり、好奇心と探求心に富む若者に十分な研究の機会が与えられるように、環境を整備することが重要である。
- ④ 学術の進歩は人間の生活の向上に寄与すべきものであるから、学者は自分の興味を満足させるために研究するのではなく、常に実用性を念頭に置く必要がある。
- ⑤ 古い文物や書物を研究するには、事実にもとづいた検証と合理的な判断を重んじる態度が必要であり、権威に追従したり流行に左右されたりしてはならない。



# 問題訂正

## 国語「国語Ⅰ・国語Ⅱ」

訂正箇所	63ページ 第3問 右から2行目
誤	…さりとして浅きにも <u>あ</u> らず。…
正	…さりとして浅きには <u>あ</u> らず。…